

12 月 7 日（水）5, 6 時間目に台湾の国立南投高級中学 20 名，台北市立大同高級中学 32 名，本校 35 名でオンライン交流会を行った。各校がそれぞれの高校での部活動や委員会，イベントなどをまとめた学校紹介を行った。その後，SDGs の 17 の目標に合わせて 17 つのグループに分かれた。それぞれ 4～6 人のグループで自己紹介と SDGs についての討論を英語で行った。スライドを用いて発表したり，それに対して質問が出たりするなど，活発な討論が行われた。討論が終わったグループは，学校生活や趣味などを自由に話して交流した。最後に，SDGs の各目標に対してグループでまとめた案を，グループの代表者が全員に向けて発表した。



学校紹介

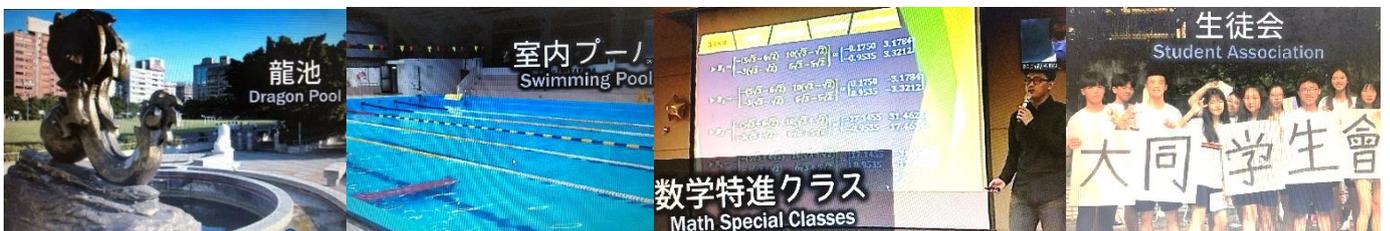
国立南投高級中学



台湾の学校は建物が敷地内にいくつもあり，きれいだった。中庭があったり，外にバレーボールコートがあったり，日本の高校と比べると校舎は大きく，建物はおしゃれで大学に近いイメージを持った。食堂が豪華で図書館に雑誌が置いてあり，本を読むためのソファがあった。合唱コンクールやバレーボール大会などの行事や部活動の種類は日本と共通するところが多かった。

台北市立大同高級中学

大同高級中学は校門を入り街路樹のある大同通りを進むと，龍池があり，校舎も新しく毎日通うのに飽きない環境だと感じた。国連のような活動をする部活動やマスコミ関係の部など，独自の部活動があって面白いと思った。プログラミングや科学の授業が進んでいる。英語に特化したクラスや数学に特化したクラスで早くから自分の興味があることを専門的に学べるのでいいと思った。



SDGs 討論会

15 陸の豊かさも守ろう



「陸の豊かさも守ろう」について話し合った。台湾は国土は小さいが 2000 種を超える生き物が生息しているという。現在日本に何種の生き物が生息しているのか把握していないため，まず日本にどのような生き物が生息し，外来種は何か，在来種は何か調べてみようと思った。対策について「仮想現実」を使うという意見が出てとても興味深いと思った。また，日本では「F S C マーク」というマークが商品のパッケージや容器についていることを初めて聞いた。今後はその商品を中心に買い物をしていきたい。

6

安全な水とトイレ
を世界中に

「安全な水とトイレを世界中に(Clean Water and Sanitation)」をテーマに台湾の生徒と話し合った。彼らの話によると、台湾の川が一時生活排水によって汚れたり、ダムに貯めている水が近年減少していたりするそうだ。私達はトイレの水の流量を少なくできるものを紹介したり、子供や大人の衛生に関する教育をするべきだと話したりした。それぞれの国での課題は異なっていたが、今私達高校生にできることは何かを話し合ったときに、グループ内で無駄な水の使用を止めるべきであるという意見が複数出た。

台湾のある生徒からは、政府に直接手紙を書いて水質汚染などに関する人々の意見を書こうという考えも出て、個々の持つ考えが多様で面白かった。

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関して話し合いました。一番驚いたのは「What can high school students do to achieve the goal?」という質問に対する答えでした。私達日本人は車を使う代わりに自転車やバスを利用したり、エアコンの温度を調節したりして「節電する」ことで電気の消費量を減らすことができるという誰でも簡単にできる身近な方法を考えていました。台湾の高校生は街の現状や政府の取り組みをよく調べて実際に政府に意見したり、提案したりすることで自分達の意見を反映してもらえるようにするのが最善策だと考えていました。解決のための方法としてはどちらも正しいと思いますが、行動内容の規模が大きく異なっていたことに驚き、高校生の立場でも積極的に社会貢献しようと強く考えていることが素晴らしいと思いました。環境問題について考えていくためには世界で協力していくことが大切だということを改めて感じることができました。

台湾の高校生は街の現状や政府の取り組みをよく調べて実際に政府に意見したり、提案したりすることで自分達の意見を反映してもらえるようにするのが最善策だと考えていました。解決のための方法としてはどちらも正しいと思いますが、行動内容の規模が大きく異なっていたことに驚き、高校生の立場でも積極的に社会貢献しようと強く考えていることが素晴らしいと思いました。環境問題について考えていくためには世界で協力していくことが大切だということを改めて感じることができました。

14

海の豊かさを守ろう



「海の豊かさを守ろう」を議題に話し合いました。私は目標達成のために高校生ができることは、消費者として商品の価値よりも、環境への優しさなどを判断材料に魚を選ぶことだと思いました。一方で、台湾の生徒からは砂浜のごみを片付ける、SNSで環境保全を呼びかけるなどの積極的意見が多かったです。

【参加者の意見・感想】

- ・改めて英語の楽しさに気付くきっかけになった。伝わるかどうかよりも伝えようとする姿勢が大事だと感じたし、それが結果的に良いコミュニケーションにつながると思った。
- ・英語で伝えたいことが上手く伝えられないこともあったが、それと同時に言葉も文化も異なる人々と英語を使って会話することの楽しさを知ることができた。
- ・まったく伝わらないときは焦ったが、伝わったときに喜びを感じた。
- ・台湾は先進国のイメージが強かったが、都市部と地方での格差が生じており日本と同じような課題を抱えていたことが意外だった。
- ・自分の考えをうまく英語で伝えられず、悔しい思いをした。台湾のSDGsに対する取り組みを知り、視野が広がった。
- ・台湾の学生と英語で会話をして改めて英語の楽しさを知ることができた。英語へのモチベーションを高めることができた。
- ・英語で討論するのは難しかったが、自分の英語を活用していくのが楽しかった。
- ・聞かれていることがわからないこともあったし、言いたいことを英語でうまく伝えられないこともあって、自分の英語力の低さを痛感すると同時に台湾の高校生のレベルの高さに驚いた。英語を勉強するモチベーションも高まったし、良い刺激を受けていい経験になった。
- ・SDGsの討論の後時間があつたのでお互いの日常生活の話をした。台湾の生徒は積極的に質問してくれたが、自分からはあまり質問することができなかつたので次回までに台湾のことについて調べてもっとコミュニケーションをとれるように頑張りたい。
- ・うまく伝えられずに相手に勘違いされたらどうしようと怖がってしまい、積極的に話すことができなかった。それに対して台湾の生徒は積極的だったし、日本の文化もたくさん知っていてすごいなと思った。2月の台湾研修に向けてもっと台湾のことについて知らなければいけないなと思った。